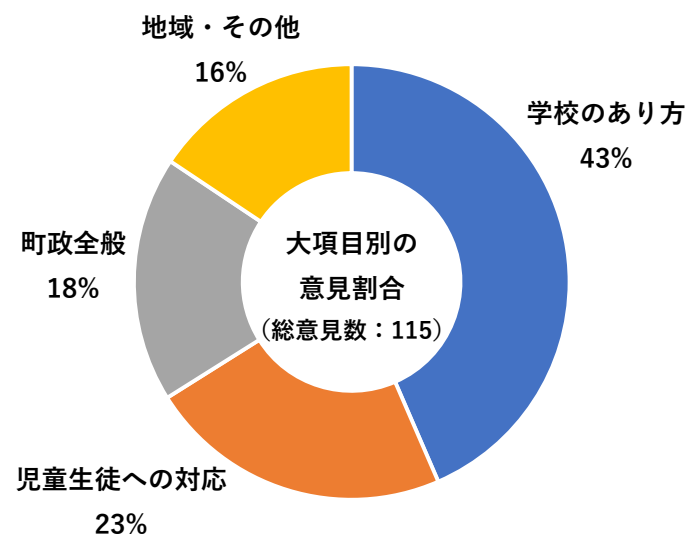


みんなで創る学校づくりプロジェクト 地域住民・保護者説明会における意見の概要

- ・地域説明会で寄せられた意見について、大分類・小分類ごとに整理を行った結果、「学校のあり方」「児童生徒への対応」に関する意見が多く見られた。
- ・次頁以降に各項目における意見の詳細を示す。



※複数の論点を含む意見については、内容に応じて分類した。
 ※意見割合は、総意見数に対する各項目の割合を示す。

意見分類別の集計結果

大項目	小項目	件数
町政全般(21)		
	財政面について	10
	人口減少について	9
	町の考え	2
学校のあり方(50)		
	配置・校舎について	21
	義務教育学校・小中一貫校について	9
	教育方針について	8
	設備について	4
	部活動について	3
	教職員の配置・研修	2
	給食について	1
	開校に向けた準備	1
	学校名の決定	1
児童生徒への対応(26)		
	通学方法の検討	13
	児童生徒のサポート体制	11
	制服の購入	2
地域・その他(18)		
	地域とのつながりの維持	5
	廃校活用について	4
	説明会について	3
	災害時対応について	2
	情報発信について	2
	保護者への意見聴取について	1
	他自治体の事例について	1
件数		115

項目別の主な意見

■町政全般(21)

小項目	質問・意見	回答	地区
財政面について (10)	学校の新設には多額の費用がかかると思うが、財政面の見通しはどうなっているのか。(2)	1 から 9 年生までを合わせておよそ 1,000 人規模の校舎を想定しており、事業費は概算で 70～80 億円程度となると予測している。国・県の補助金の活用についても現在検討を進めているが、町の財政状況としては、今年度の当初予算が 96 億 1,000 万円、借金が約 40 億円（うち半分以上は国が補填する臨時財政対策債）、貯金（基金）が約 30 億円あり、健全な状態を維持している。現在の 8 校を維持管理するだけで年間 4 億円以上を要することを踏まえれば、新設は将来への投資として十分に持続可能な範囲内であると判断している。	富秋・川合
	資材高騰により、建築する際に現時点での概算より費用が膨らむ可能性がある。費用が大幅に増えた場合、この計画が立ち消えになる可能性はあるのか。(2)	子供たちの教育環境を整えることは行政の最優先事項だと考えており、計画を立ち消えにすることは決してない。建築単価は上昇傾向にあるが、既存校舎についても、寿命を考慮すればいずれは建て替えや新設が必要になる。状況を注視しながら、令和 13 年度以降の開校を目指して着実に事業を進めていく。	富秋・豊木
	3 つの候補地が示されているが、コスト面の情報も提示したうえで、選択ができるようにして欲しい。	コストについては、他事例と同様、約 70～80 億円程度の金額がかかると予想されるが、大野町の財政状況を踏まえると十分に実現可能であると考えている。	西郡

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	補助金等を活用しながら事業を進めることになると思うが、国への申請などはどのように考えているのか。財政面を考えると、大野町が借金をして事業を行うのは大変だと思う。国からの支援を受けれるように進めて欲しい。	今回の事業実施にあたり、一定の基準に基づき国から補助を受けることができるが、補助単価が実状に見合っていないため、単価の引き上げを国および県に要望している。 また、このような一定規模の事業を実施するにあたっては、地方自治体は起債により財源を確保する。起債に際しては、国が一定割合を補填する制度などもあるため、これらを適切に活用しながら事業を進めていく予定である。	西郡
	現状の小中学校の維持管理費の 4.3 億円は、町の予算を考慮すると非常に大きな金額である。また、新しい学校のイニシャルコストは約 50 億円とのことだが、近隣の同規模の事業では、当初 60 億円を想定していたものの、物価上昇や世界情勢の影響により、最終的には 100 億円程度まで費用が膨らんだと聞いた。財政面については、町民にも広く情報を公開した、みんなで検討に参画できるプロジェクトとして欲しい。	維持管理費については、光熱費も含めた実績ベースの数字であり、現在はエアコンのリース代が非常に大きな割合を占めている。統合により 1 校となることで、かなりの費用削減が見込めると考えている。 建設費が高騰する可能性はあるが、子供たちがのびのびと安心して楽しく学び、生活できる学校、また近隣地域にも誇れるような最高の教育環境を整えるという思いで取り組んでいきたい。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	基本方針に加えて、建築費や国・町それぞれの負担額、将来の返済計画など、具体的な「バランスシート」を示すべきだ。予算が70億、80億と膨らんでいる印象があり、財政投入への理解を得る努力が必要だと思う。	おおよその事業費については算出しているが、詳細については不確定要素が多く、今後の条件やさまざまな要因によって事業費が変動する可能性もあるため、現段階での公表は難しい状況である。	豊木
	非常に大規模な事業となることが想定されるが、大野町の状況や財政規模を踏まえると、多額の事業費が必要となることに不安を感じる。	—	豊木
	少子化対策としての統合には概ね賛成である。詳細な事業費については現時点では提示されていないが、事業費や各家庭の負担、他施策への影響が生じるのではないかという懸念がある。	—	豊木
人口減少について(9)	この学校再編は30年、50年後を見据えての計画と聞いている。去年の出生数は53人であったが、30年後にはどの程度になると考えているのか。	30年後までのシミュレーションはあるが、現状より増加することは見込めない。今後も、引き続き移住定住、地方創生の取り組みに力を入れていきたいと考えている。	大野

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	これほど少子化が進んでいる理由は 何だと考えているか。	少子化は全国的な課題だが、大野町においては進学や就職を 機に都市部へ人が流出すること、また晩婚化、未婚化が進ん でいることが大きな要因だと考えている。	西郡
	学校がなくなる地域については、転入 が見込まれにくくなり、地域の高齢化 や過疎化がさらに進行する可能性が あると思う。学校統廃合の構想と併せ て、高齢化・過疎化の進行を抑制し、 人口流出を少しでも食い止めるよう な地域活性化策についても示して欲 しい。	学校がなくなることで、その地域への転入が見込まれにくく なる面もあるかと思うが、一方で、魅力ある学校が大野町に あるということを対外的に発信することで、「大野町で子供 を学ばせたい」と思っていた方が増える可能性もあ る。そのような思いを持って、この事業に取り組んでいき たいと考えている。	川合
	町内には賃貸住宅が少なく、転入のハ ードルが高いと感じる。学校事業にと どまらず、まちづくりの観点から住宅 施策についても進めて欲しい。	住宅施策については、農地法との兼ね合いも考慮しながら、 宅地開発について民間事業者への働きかけを行うなど、人口 減少に歯止めをかけるための施策を推進していきたい。	鶯
	保護者世代が大野町から転出傾向に あることが、人口減少の原因だと思 う。	少子化は地方のみならず全国的に進んでいる。町としてもま ちづくりの中で大野町の魅力を高めるとともに、企業を誘致 し働ける場所を確保し、不自由なく子育てできる環境を整え ていきたいと考えている。	豊木

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	これだけ大規模で特色ある小中一貫校が整備されれば、名古屋などの都市部からも、大野町の教育環境や住環境に魅力を感じて転入してくる人が増える可能性がある。子供が減っていくことを前提に考えず、将来的に子供が増えることも見据えながら、子供たちがわくわくできる学校づくりを進めて欲しい。	大野町でしかできないような、特色ある教育を行いたいと考えている。義務教育学校にはさまざまな特色ある事例があるが、その中でも大野町ならではの教育を実現できる学校、子供たちがわくわくし、夢を持てるような学校をつくっていききたい。	豊木
	昔中小学校の大規模改修があった際に、南小学校との統合の話が出なかったのはなぜか。少子化が深刻化し、今回の事業が本格化したと思うが、もう少し早い段階から大野町の教育について考えるべきだったのではないか。	中小の大規模改修時には、南小との統合の話は出ていなかったと記憶している。	豊木
	必ずしも子供の数が減少しつづけるとは限らないと思う。これから大野町に住む人が増えるように、まちづくりを頑張ってもらいたい。	—	大野
	現在の構想は、少子化に対応するための縮小均衡的な考え方の中で進められているように感じる。	—	豊木

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	義務教育学校の開校が未来への大きな投資だという言葉があったが、未来への投資に対してどのようなリターンがあると考えているのか。将来の大野町を創っていつてくれる子供たちに、何を見せてあげたいのか。	大野町は大変自然が豊かな環境であるため、環境の良さを十分に活かした学校をつくっていきたいと考えている。 行政として最高の教育環境を提供し、地元への愛着を育むことで、子供たちが将来的に町を支える人材として戻ってきけることを期待している。また、多様な仲間と切磋琢磨することで、社会性とたくましさを身に着けるとともに、ふるさと教育を通じて、子供たちが大野町出身であることに誇りを持てるような教育を行っていききたい。	西郡
町の考え(2)	プロジェクトとしての推進体制が分かりにくいと感じる。今回の事業は町と町民の双方にとって大きな事業である。150年続いた小学校が廃校となり、地域の核がなくなることで、地域にどのような影響があるのかについては、多くの町民が関心を持っている。その点も踏まえ、どのような体制で進めるのか、どこまでをこのプロジェクトで検討するのかを示して欲しい。	体制については、基本計画策定後に本格的なプロジェクトチームを立ち上げ、住民参画の機会を設けていきたいと考えている。そのためにも、まずは今年中に、統合の方針や学校の場所等について基本計画として策定していききたい。 町内の多くの小学校は開校から約100年が経過しており、町民の皆様が地域の学校に愛着を持たれているということは理解している。しかし、現在の少子化の状況を見ると、そのまま維持していくことは難しい状況にあることをご理解いただきたい。また、その代わりというわけではないが、昨年から公民館の名称をふれあいセンターへ変更し、地域の核をこのふれあいセンターに担ってもらいたいという思いで取組を進めている。今後は、その活動へのサポートにもさらに力を入れていく。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

■学校のあり方(50)

小項目	質問・意見	回答	地区
配置・校舎について(21)	候補地の一つである「人口重心地周辺」は、具体的にどのあたりを指すのか。(2)	人口重心地周辺は、役場西の道路を南下した旧名鉄廃線跡の南側あたり、現在は農地が広がっている地域であり、町全体の人口データから重心となるポイントを機械的に算出した。	西郡・川合
	提示された3つの候補地のメリット・デメリットを教えて欲しい。	東小学校案は既存校舎の一部活用が可能である。また、必要面積を確保するため用地買収は必要となるが、取得予定地が農地ではないため、比較的早期に建築を行うことが可能である。既存校舎を活用する場合については、校舎をすべて活用するのではなく、南側に新校舎を建設したうえで、一部を活用する方法を検討している。 役場周辺案については、土地をすべて購入する必要があるが、取得予定地は現状すべて農地となっている。一方で、中央公民館、図書館、体育館などの既存施設や駐車場を活用できるため、コストを抑えられる可能性があると考えている。 人口重心地周辺案についても土地をすべて購入する必要があるが、周囲が農地であることから、将来的な拡張性が見込める。	川合
	東小学校の築年数は何年か。	東小学校は、昭和 57 年に校舎が建築されており、完成から 43 年が経過している。体育館・プールについてはその 1 年後に建築されているため、完成から 42 年が経過している。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	なぜ大野中学校が候補地から外れているのか。施設も充実しており、必要面積の条件を満たしている。拡張性が見込めないとのことだが、敷地内の配置工夫などにより十分対応可能である。役場やバスセンターとの位置関係を考慮しても十分な立地条件であると思われる。コスト面を考えると、既存の立派な施設である大野中を活用すべきではないか。	選定プロセスでは当初、既存の 8 校すべてを候補に入れて検討した。面積や通学距離などの条件で検討を重ねた結果、既存校に残ったのは東小学校のみとなった。外部検討委員会においても、大野中については深く議論された。面積は十分だが、最大の懸念は「アクセスの安全性」と「送迎対応」だ。1,000 人以上の規模になると、災害時の引き渡し訓練や、大雨・大雪時の保護者送迎車両を現在の周辺道路では捌ききれない。また、既存敷地での建て替えは、工事期間中に子供たちにプレハブ校舎での生活を強いることになり、その間の学びを止めてしまう懸念もある。これらの理由から、委員会として候補から外す判断に至った。	豊木
	最終的な場所を決定するのはいつ頃か。	基本計画を策定する関係で、今年度中にはこの 3 案の中から 1 か所に絞りたいと考えている。	大野
	3 つの候補から、どのように最終的な場所を決めていくのか。	今回提示した 3 か所について説明会で意見をいただき、最終的な場所については、その結果を踏まえて決定していきたいと考えている。	西郡
	学校の場所を住民投票で決定することは考えていないのか。	一つの手法として検討するが、現時点では実施の可否や対象などに課題があると考えている。	西郡
	大野町の良さである自然環境を活かし、子供たちの心が豊かになる場所に学校を作って欲しい。	提示した 3 つの候補地は、いずれも周辺環境が良好であると考えている。学校周辺の環境づくりが子供たちの学びにとって大変重要なことであると捉え、環境づくりにも力を入れていく。	富秋

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	大野町は面積が広く、通学距離が遠くなることに對して不安がある方が多いと思う。学校の場所は慎重に決定して欲しい。	大野町は北から南まで 12km あり非常に長い地形をしているため、通学中の子供の安全というのは大変重要だと考えている。	大野
	小学校と中学校の校舎は併設するのか、同じ建物で授業を行うのか。(2)	小学校、中学校の校舎を併設するのではなく、一つの校舎で 1 年生から 9 年生までが学ぶ形の学校を考えている。	大野・西郡
	大野中や東小の校舎等、既存の校舎をリノベーションして活用することはできないのか。(2)	既存校舎を活用する場合、将来、大規模改修が必要となり、最終的に校舎を新設する場合と同程度のコストになると考えられるため、新設の方向性で検討している。また、リノベーションにより開校した義務教育学校の事例も視察したが、現代の教育に求められる「多目的スペース」の確保や、多様な学習形態への対応を考慮し、子供たちの学びにとっては新設が最適であると考えている。校舎の形態についても、コスト面等の比較を行いながら、引き続き検討を行う予定である。	大野・富秋
	現在は、学校に児童生徒を集める集合型の教育が一般的であるが、AI 技術が急速に進展していることから、将来的には学校に集めない教育が主流となる可能性もあると思う。せっかく整備した校舎が無駄にならないよう、将来的に別用途へ転用しやすいレイアウトや構造として欲しい。	学校は社会性を育む場として重要であり、子供たちが集まって学ぶことの意義は今後も変わらないと考えている。一方で、将来的な転用可能性についての視点も心に留めながら、事業を進めていきたい。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	保護者として、新しい学校の場所に一番関心がある。安心安全に通えるのかに加えて、各地区の保護者の納得感も大切だと思う。	—	西郡
	初めは統合に反対だったが、説明を聞いて考えが変わった。学校の場所だけはしっかりと検討して欲しい。	—	西郡
	学校の場所をはやく決めることが一番肝心だと思う。スケジュールに余裕がないため、できるだけはやく事業を進めて欲しい。	—	大野
	慎重に統合の計画を進めていかないと、将来的に大きな問題が生じるのではないかという不安がある。	—	豊木

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	鉄筋コンクリート造の校舎であれば適切に管理すれば、60年から80年程度使用でき、老朽化を理由に大野中学校を候補から除外することには納得できない。また、敷地内の配置の工夫により、安全性も確保できると思う。現在の条件だけを前提とし、コスト面を考慮せずに候補地を決定するのは望ましくない。	—	豊木
	なぜ新たに校舎を建設し、大規模な事業を実施するのか。	—	豊木
	大野町に戻ってくる層や、転入してくる層は、家を建てる際に学校との位置関係を気にすることもあると思うため、学校の場所については、その点も配慮して決定して欲しい。	—	豊木
義務教育学校・小中一貫校について(9)	義務教育学校制度の導入はやむを得ないと思うが、これに至った経緯が見えにくい。	外部検討委員会、内部検討委員会において4年以上の時間をかけて今回の事業について議論を重ねてきた。経緯が説明不足であった点は反省し、今後はより分かりやすい説明に努める。出生数が53人という現実を直視すれば、統合は避けて通れない課題であり、外部検討委員会でも様々な案の中から、小中学校1校ずつ、義務教育学校の形態とすることが望ましいだろうという結論となった。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	義務教育学校のメリット・デメリットについて教えて欲しい。(2)	義務教育学校のデメリットとして、7年生（中学1年生相当）進級時の新鮮な気持ちが薄れるのではないかという声がある。一方メリットとしては、9年間一貫して見守ることで「中1ギャップ」による不登校を未然に防げること、独自の区切りでリーダーを育成できること、異学年交流により社会性が育まれることなどが挙げられる。さらに、小学校の教育免許も持った中学校の教員がいるため、小学校段階から各教科を専門教員が教える「教科担任制」を導入しやすく、教育の質の向上も期待できるなど、総合的に義務教育学校とするデメリットよりもメリットの方が大きいと考えている。	大野・富秋
	小中一貫校のモデルの事例について教えて欲しい。	現在、岐阜県で義務教育学校の開校が進められている。4月から笠原小中学校、藍東学園が開校したが、近年再編する学校はほとんどが義務教育学校となっている。中1ギャップの解消に効果的であることや、幅広い学年と交流できる義務教育学校は社会性を身につけるうえで望ましいなど、様々なメリットがあるため、全国各地で義務教育学校が右肩上がりに増えている状況である。	大野
	高校の授業料無償化により、新しい義務教育学校ではなく私立の中高一貫校へ流れる層が増える可能性がある。	私立へのシフトは認識しているが、公立の義務教育学校は県内外においても珍しいため、学校の魅力を高めることで対抗していく。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	想像以上に少子化が進んでいるため、小学校と中学校１校ずつになるのはやむを得ないと感じた。	—	大野
	少子化は誰もが実感していることであり、学校統合の方向性については賛成である。現在は各学年１クラスのみ为学校もあり、進級時にクラス替えがないなど、子供たちの人間関係が固定化しやすい状況にあるため、クラス数が増えることには一定のメリットがあると感じる。	—	豊木
	新しい学校が全国的な先進事例となり、卒業した子供たちが将来、自分の子供もこの学校へ通わせたいと思えるような学校になることを期待する。	—	鶯
	このプロジェクトが全国的な先進事例であるという気概を持って、前向きに検討を進めて欲しい。	—	豊木

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

教育方針について(8)	教育内容については決まっているのか。	9年間の系統性・体系性に配慮した教育課程を編成する。また、新しい学校の特色として、ふるさと教育、英語教育に重点を置いた教育課程を作っていこうと考えている。ただ、学習内容については、これまでの小学校、中学校での学習指導要領も踏まえ、新しい学校でも同様に、押さえる内容については確実に押さえて学習を進めていく。	大野
	特色ある教育・グローバルな教育について、どのような教育内容を考えているのか。	新しい学校づくりにおいては、英語教育と、各地区で学んできたことを活かし、自分の地域のみならず、子供たちが大野町全体のことを学べるようなふるさと教育に力を入れた教育課程を作っていきたいと思う。	西郡
	近年、IT 企業などが大野町に工場を構えている。新しい義務教育学校に、外国人労働者の家族が入学することも考慮した学校づくりが必要なのではないか。	大野町においても、将来的に外国人労働者が増える可能性があると考えている。県内でも、日本語が話せない子供が多い自治体の学校では、英語をはじめ色々な言語を話せる先生を重点的に配置していると聞いている。いずれ大野町も同じような状況となると考えられるが、学校を1つに統合し、一定の学校規模を確保することで、英語等の専門教員を重点的に配置しやすくなると考えている。	川合
	均一化された教育ではなく、特定の分野で秀でたプロを育てるような、独自の教育が必要だと感じる。それに対応できる教職員を養成できるかも気になる。	義務教育は、日本国民としての規範や基礎を身につけるための極めて重要な9年間だ。個々の能力を伸ばすことも大切だが、まずはある程度の人数の集団の中で人間関係を学ぶとともに、切磋琢磨していくことが必要不可欠であると考えている。	西郡

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	教科担任制については、教員の専門性を生かした指導ができる点では良いと思う。一方で、担任が子供を長期的に見守る機会が減ることで、子供たちに影響が出ないかという不安もある。	現在、文部科学省では、小学校3・4年生以上における教科担任制を推奨しているが、大野町では教員配置の関係から、教科担任制を実施できていない場合がある。新しい義務教育学校において教科担任制を導入することで、小学校・中学校双方の免許を持つ教員による質の高い指導が小学校段階から可能となり、児童生徒の学力向上も期待できると考えている。今後は、子供の発達段階に応じた教科担任制を組んでいきたい。	鶯
	新しい学校では、多様な学びという点に力を入れて欲しい。 現在の中学校では、学校の授業についていけない子供も見られるため、習熟度や学習レベルでクラスを分けるなどの配慮をして欲しい。また、宿題の内容についても、個人の学力に合わせるなどしてもらいたい。	近年、インクルーシブ教育という考え方があり、特性、性格タイプの異なる子と共に学習することで、子供たちはたくさんのかを学ぶことができる。義務教育学校とすることで、それが可能になると考えている。また、不登校の子については、現在、研修センターのほほえみ教室に通ってもらっている状況だが、義務教育学校となった際には、不登校の子も安心して通える場所を提供したいと考えている。また、子供たちの学力に個人差があり、一律の宿題を出すことで負担を感じている子供が多いことは認識している。ぜひ学校や教育委員会にもそうした情報を寄せていただきながら、一緒に子供たちを育てていければと思う。	鶯
	新しい学校では、「子供が多様であるということ」を前提とした学級づくり」を目標の一つにしてもらいたい。	ダイバーシティという言葉もあるが、子供だけでなく、大人も多様性を認め合う社会にしていかなければならないと思っている。多様性への理解も含めた学校づくりに、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。	鶯

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	現在は少人数であることにより、子供たち一人ひとりに対して丁寧な指導ができていると思う。統合により児童生徒数が増えた際、この丁寧な指導をどのように維持・展開していくのか。子供たちはとても素直で良い子たちなので、このまますくすくと育ててほしいと思う。	—	川合
設備について (4)	愛知県に住んでいた際に、近隣の小中一貫校で屋内プールができたが、児童生徒数が多いためプールや運動場を使用できる時間が短いという話を聞いた。 施設の配置は、児童生徒数を考慮して検討してもらえるのか。	施設整備の手法として、PFI（官民連携）などを検討している。プールでいうと、民間事業者が建設・維持管理を行い、学校は授業で使用するが、夜間や休日は一般住民に開放するといった形があり、これによりコストを抑えつつ、充実した施設を確保できる可能性がある。現在、官民連携、公民連携の手法も視野に入れ、民間企業へのサウンディング調査を進めており、施設の配置については多様な選択肢を持って検討を行う予定である。	富秋
	運動会・プール・部活等で子供が活躍する機会が減っている。新しい学校ではプールを屋内にするなど、活躍の場を作って欲しい。	既存の小学校および中学校のプールは、ほとんど利用されておらず、夏季においては高温のため使用が困難な状況にある。新しい学校の設備については、こうした状況を踏まえ、プールの一般開放も視野に入れつつ、子どもたちに親しまれる施設として整備していきたい。	大野

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	今回の事業にあたり、民間企業と連携できる可能性はどの程度あるのか。プールの整備・運営を民間のスイミングスクール等へ委託することで、維持管理費の削減や、スイミングスクールの送迎バスをスクールバスとして一部活用できる可能性もあると思う。	施設整備にはPFI（官民連携）手法を検討中である。民間企業への調査も実施しており、プールの民間開放や維持管理の効率化を視野に入れている。	鶯
	行事等を見据えて、保護者用の駐車場を十分に確保して欲しい。現在、中小は駐車場が少なく、授業参観のために早くから駐車場の確保が必要であったり、クリアセンター駐車場の枠外に駐車している車が多くいたりして困っている。	送迎用ロータリーの設置や駐車スペースの確保の必要性については十分認識しており、今後検討を進めていきたいと考えている。	鶯

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

部活動について (3)	子供が大野ジュニアウィンドオーケストラに所属して活動している。 現在は町民センターも利用して部活動を行っているが、新しい学校になった際には、放課後も学校で活動ができるようにしてもらえるとありがたい。また、先生が不在で休日に活動場所の鍵が開けられないこともあるため、保護者や指導者でも鍵が開けられるような仕組みしていただきたい。	ジュニアウィンドオーケストラについては、地域展開の取組として、他自治体からも高く評価されており、良い指導者の下で子供たちがやりがいを持って活動してくれている。学校で活動する場合、吹奏楽は音楽室をはじめ、楽器ごとにさまざまな教室を使用することになる。そのため、学校での活動にあたっては考慮すべき点も多いが、現時点では活動場所については白紙の段階であるため、いただいた意見も参考にしながら検討していきたい。	鶯
	現在、部活動への加入が任意となっているが、小中一貫校となると小学生にあたる年齢から部活動に参加することができるようになるのか。	現在、中学校では週に2回程度部活動を実施しており、休日については地域展開の一環として、地域クラブとして活動している。大野中学校と揖東中学校で合同チームを組んで活動している種目も多くあり、4月からは、小学校5・6年生についても体験的に地域クラブへ参加し、さまざまな種目を見学することで、自分に合った活動を見つけられるような体制を整えている。小中一貫校となることで教職員数も増え、さまざまな部活動に対応できる体制づくりにつながると考えている。	鶯

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	近年、スポーツ少年団が減少傾向にある。学校を2校程度残すことで、町内での対戦機会を維持できないか。このままだと、スポーツに全く関心を持たなくなる子供が多くなるのではないかと感じる。	とにかく子供の数が減っており、昨年の出生数は53人であった。男性、女性が半分ずつということを考えると、野球チームについては1チームできるかどうかというぐらいの人数となっており、この現状を踏まえると、やはり小学校1個、中学校1個、できれば小中一貫校という方針は変えられないと考えている。また、出生数を増やすということについては、町としてしっかりと取り組んでいきたい。	鶯
教職員の配置・研修(2)	義務教育学校となるにあたり、教職員の配置計画や処遇はどのようなになるのか。	校長1人、副校長1人を配置し、北方学園においては教頭が3人配置されている。また、養護教諭、事務職員など、児童生徒数に応じた教職員が法律に基づき配置される。現在町独自で雇用している支援員についても、引き続き配置していく考えである。義務教育学校となることで、小規模校で生じがちな複式学級(2学年1学級)を解消し、適切な教員数を確保できるメリットがある。	西郡
	義務教育学校という新しい形態において、教職員のスキルや質をどのように高めていこうと考えているのか。スタートしてから大人も手探りで進めるとなると、子供に負担がかかるのではないかという心配がある。	すでに県内外の義務教育学校への教職員の視察・研修を重ねている。また、教員の研修会で、実際に義務教育学校に携わった方による講演の場を設ける予定である。今後は校長会や教頭会、教務主任会、さらには教科ごとの部会を立ち上げ、現場の先生方とともに大野町の新しい義務教育の形を構築していく。	西郡

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

給食について (1)	給食がおいしいことや、楽しく食べられることも、学校選びにおいては重要だと思う。現状は、価格面から地元産以外の野菜が採用される場合もあるが、地産地消を目指して、大野町町独自で食材を開発するぐらいの意気込みで取り組んでもいいと感じる。岐阜県では、地産地消による日本一おいしい学校給食を目指すという考え方も示されているため、新しい学校の給食についても、そのような視点を踏まえて検討して欲しい。	2年ほど前から、池田町と大野町で合同の給食センターを運営している。自校給食が理想的であるという認識は持っており、学校が1つになった際には、給食センターの設備更新等のタイミングに合わせて、自校給食への移行についても検討していきたい。給食の地産地消については、農協と協力しながら、徐々に地域産食材を給食へ取り入れ始めているところである。岐阜県では地産地消の考え方が重要であると言われるが、大野町においてもその考え方を重視しながら、学校給食に取り組んでいきたい。	豊木
開校に向けた準備(1)	学校を移るために、学校も保護者も準備期間が必要になると思う。在校生は一斉に新しい校舎に移るのか。それとも学年ごとに段階的に移行するのか。	開校に合わせて全学年一斉に移行する予定である。子供たちが混乱しないよう、開校の2年ほど前から、各校の日課や教育課程、持ち物などを統一していく準備期間を設けていく。また、一部、部活動の地域移行などを通じて、すでに学校間の交流が始まっている。制服についても、開校の数年前から大野中と揖東中の新入生の制服を共通化するなど、スムーズに移行できるような工夫を行っていきたいと考えている。	富秋
学校名の決定 (1)	新しい学校の名前は決まっているのか。	学校名については、町民に募集した名前から決定したいと考えており、小学校、中学校を合わせて1つの名前の学校とする予定である。	西郡

■児童生徒への対応(26)

小項目	質問・意見	回答	地区
通学方法の検討 (13)	事故が多い大きい道路を渡って通学することが増えると思う。学校の場所が決定したら通学路とその安全性について、旗当番等の実施も含めて検討して欲しい。	地区から学校までの通学距離と安全性については、今後しっかりと検討を行っていく。	大野
	大雨が降ると送迎の車が多くなり、徒歩の子供の危険性が高まる。送迎用の乗降車場を整備したり、学校で一方通行のルールなどを作ったりして欲しい。	1校に統合することで遠方からの車での送迎も考えられるため、送迎スペース等も必要になると考えている。また地域住民の方の車両との兼ね合い等も踏まえて、送迎のルール作りについても今後しっかりと検討していく。	大野
	夏場は徒歩通学の子供が汗だくで帰ってくるため、送り迎えが必要だと感じる。通学距離に加え、気温の問題や、年齢なども踏まえてスクールバス利用の対象を検討して欲しい。	低学年の夏場の長時間の徒歩通学は大変困難だと考えている。徒歩圏内の子についても、夏場だけスクールバスを活用してもらうなどの案も含めて、引き続き検討を進めていく。	大野
	スクールバスの運転手の確保についてはどのように考えているか。	運転手の確保については、委託先の活用も含め、今後検討していく。	鶯

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	子供が家から学校まで長い距離を歩いて通学しているため、スクールバスが利用できるのはありがたい。親としても安心して送り出すことができる。	スクールバスについては、子供たちに積極的に活用してもらいたいと考えている。また、待機場所の安全確保が非常に重要であると認識しており、その点についてもしっかりと配慮していく。また、スクールバスの経路については、地域の歩行者との兼ね合いも考慮したうえで検討していきたい。 基本計画にはスクールバスの詳細までは記載しない予定であるが、各地域の子供たちがどの範囲までバスを利用する想定かといった構想については示していきたいと考えている。	鶯
	スクールバス通学になると、通学の長時間化や、バスの待ち時間の発生が考えられるため、しっかりとした運行計画が必要だと感じる。	現在、全国的にスクールバスへの切り替えが進んでいる。大野町の状況を踏まえると、円滑な運行のためには多くのバスが必要になると考えているため、今後しっかりと検討していく。	豊木
	学校から離れた地域についてはスクールバス通学を想定しているとのことだが、共働き世帯の送迎負担の増加や、学校から離れた場所における人口減少が懸念される。	スクールバスの運行による保護者の負担については、極力生じないようにしたいと考えている。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	スクールバスについては以前から聞いていたが、最近になって路線バスという言葉が出てきたように感じる。路線バスの場合、幼い児童については、降車ボタンの押し忘れや、一般客との乗り合わせによる防犯面など、不安を感じる部分もあるため、遠方からの通学方法については、可能であればスクールバスに一本化して欲しい。	通学方法については、低学年児童の安全面を考慮し、スクールバスを基本として検討を進めていく。一方で、名阪近鉄バスや岐阜バスといった路線バスも運行していることから、それらの活用可能性についても検討していきたい。	川合
	路線バスを通学に活用する場合、名阪近鉄バスの停留所は県道付近にあり、子供がバスを安全に待てるような場所がなく危険だと感じる。	路線バスについて、特に名阪近鉄バスの現状では、安全に待機できるバス停がなく、危険な状態である。今後、路線バスの活用を検討する場合には、バス停整備についても併せて検討し、安全確保を最優先としていきたい。	川合
	義務教育学校において、自転車通学は何年生から許可されるのか。	自転車通学については、7～9年生（中学生相当）を対象とする予定である。ただし、下座倉地区など遠方の生徒については、スクールバスまたは路線バスの利用を想定している。これらについては検討段階であるため、内容が決定次第、改めて周知していきたい。	鶯

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	近隣の道路（303 号線等）の開通に伴い、交通事故が増加している。スクールバスだけでなく、自転車通学においても事故のリスクが高まると考えられるため、その点についても十分配慮して欲しい。	危険な交差点については、警察と連携し、信号機の設置や道路拡幅を進めている。今後も、道路整備と併せて交通安全の確保に努めていきたい。	鶯
	スクールバスの乗車順などについては公正・公平を最優先に検討して欲しい。	—	豊木
	公共交通の活用も考えているとのことだが、各地区に 1 台ずつデマンドバスを運行する程度の対応が必要なのではないかと感じる。	—	豊木
児童生徒の サポート体制 (11)	現在、学童保育がそれぞれの学校ごとになっているが、1 校になった場合はどうなるのか。(2)	まだ検討段階であるが、子供たちの移動がなるべく少なくして済むように、1 校になった場合は、学童保育を新しい学校に併設することを考えている。	大野・ 鶯
	子供の発達にやや遅れがあり、現在支援学級に通っている。新しい学校になった場合、支援学級や支援体制の充実についてどのように考えているのか。	現在、町内のすべての学校に支援級を配置している。新しい学校においても支援級、支援体制の充実を重視し、特に支援級については児童生徒の人数が増えるため、学年ごとのまとまりを意識した学級編成も可能になると考えている。	鶯
	1 年生から 9 年生までが同じ学校にいたとなると、発達段階の違いにより学校行事などに影響が出ると思う。	学校行事については、参加学年を分けるなど色々な方法で実施が可能であるため、子供たちにとって一番良い方法を検討していきたい。	大野

	小中一貫校で校舎が 2 つとなった場合、年齢の離れた子供が学校に混在することになるため、いじめが起きないかという懸念がある。先生が目が届きやすい環境づくりにも配慮して欲しい。	近年、地域の中で異学年が交流する機会も少なくなっている。義務教育学校となった場合には、上級生が下級生を思いやり、下級生が上級生に憧れを持てるような学校づくりを進めていきたいと考えている。 小中一貫校については、同じ校舎内であっても、小学校と中学校の学年ごとにゾーン分けをしている事例が多い。これまで、北方北学園や上石津学園への視察を行っており、来年 7 月には、新設校であり、大野町が想定している学校と同規模の事例である愛知県瀬戸市にある、にじの丘学園への視察も予定している。学校建築のあり方についても、近年大きく変わりつつある。新しい学校については、子供たちの居場所となるゆとりある空間を備えつつ、多様な使い方ができる校舎としていきたいと考えている。次の世代にも、この学校に通わせたいと思ってもらえるような学校づくりを進めていきたい。	鶯
	クラス替えがないため安心だと子供が言っている。環境の変化が小さい方が子供にとっては安心だと思う。学校の場所やクラス替えで環境が変わる際の精神的なケア等、具体的なサポートの方法を明確にして欲しい。	少人数だと安心して学べるというメリットがあるが、行事や授業でできることが限られる場合があるというデメリットも考えられる。現在、1 校になった際に混乱せず、子供たちが新しい学校で新しい友達とスムーズにスタートできるように、学校間での日課や教育課程等の統一に向けて進めている。	大野

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	新しい校舎や人間関係でのスタートとなることで、急激な環境の変化により、子供たちのメンタル面に影響があると思う。低学年はもちろんだが、特に受験期を迎えるタイミングで学校が変わる子供たちに対しては十分配慮し、安心して学習できる環境づくりを行って欲しい。	子供たちのケアの一環として、再編前に学校間の交流を多く持ち、お互いに顔が見える関係を今から作っていかうと考えている。環境、心境の変化もついても、スクールカウンセラーを配置し、子供に寄り添いながら、安心して学校生活を送れるように配慮して計画を進めていく。	鶯
	入学後、途中で学校が変わる子供には大きなストレスがかかるのではないか。メンタルケアなどの対策はあるのか。	環境の変化に対する不安は当然あると思うが、一方で、新しい校舎や設備は子供たちにとって喜びや楽しみにもなり、良い環境を整えることで喜んで新しい環境に馴染んでくれるのではないかと考えている。もちろん個人差があるため、個々の状況をしっかりと見極め、新しい環境にスムーズに馴染めるよう、心のケアを含めた対応を検討していきたい。	西郡
	統合前から、子供たちが学校を超えて横のつながりを持つことで、統合後にストレスなく一緒に生活でき、不登校の子が出にくくなると思う。統合までの間に、共同授業や合同行事などにより、学校間の壁を越えた交流を丁寧に行って欲しい。(2)	統合前から子供たちが行事等を通じて顔見知りになることで、統合後にストレスなく生活できる状況をつくっていききたい。具体的には、ふれあいコンサートに加え、研修や修学旅行等、意識的に合同の行事を行うことを計画している。また、各学校の日課や教育課程、活動内容を、新しい義務教育学校で行う内容に統一し、統合後に子供たちが混乱しないようなシステムを作っていく。	西郡

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	市外からの転入などにより、外部の学校から小中一貫校に編入する子は、少なからずギャップや抵抗感を感じるのではないか。	文部科学省の学習指導要領により、全国共通で各学年の学習内容が定められているため、他校からの転入についても大きな問題はないと考えている。	豊木
制服の購入(2)	小中一貫校になると、7年生（中学1年生相当）になるタイミングで制服を購入する必要があるのか。	制服等については検討段階であるが、家計の負担が増えないよう、なるべく早く決定し、統一できるようにしていきたいと考えている。	大野
	小中学生の保護者から、一貫校になっても制服が必要なのかという声を聞いている。実際、ジャージで過ごすことが多いのではないかという話もあるため、制服については費用が少なくて済む方向で検討して欲しい。	義務教育学校となる場合、現在の揖東中、大野中と同じ形の制服にすることも可能だと考えている。もっと自由に色々な選択ができるよう、制服についても議論を進めていく。	大野

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

■地域・その他(18)

小項目	質問・意見	回答	地区
地域との つながりの維持 (5)	小学校を基本単位とした、これまでの地域コミュニティの維持にも配慮して欲しい。	地域のコミュニティについては、将来的に各地区のふれあいセンターが中心的な役割を担えるよう、支援を強化していく。	西郡
	現在は、各学校を通じて、ふれあいセンターの活動への参加者を募集している。1つの学校になると、各地域の活動についてはどうなるのか。	学校が1校となった場合でも、各地区のふれあいセンターを中心に、地域との関わりは継続していく。町全体で子どもを育てる考えに加え、各地域の活動も引き続き実施するとともに、新しい学校を通じてその取組を発信し、地域間の連携や参加の広がりにつなげていきたい。	大野
	今後、ふれあいセンターにどのような役割や業務を担わせるつもりなのか。現在は職員が2人体制で、いずれも正規の行政職員ではないと認識しており、正規職員の配置も検討する必要があると思う。	地域活性化については、ふれあいセンターが地域の核となることを目指しており、その一環として行政職員の配置についても現在検討を進めている。	川合
	子供の通学を地域の方が見守ってくださっていて、見守りで顔を合わせることで地域のつながりも維持されていると感じている。統合後にスクールバスを導入すると、その機会が減ってしまうのではないか。	統合後も、半数以上の子供たちは徒歩通学になることを想定している。そのため、地域による見守り活動についても、これまでと大きく変わらず行っていたけるとありがたい。 また、スクールバスについても、各家庭を個別に回することは難しいと考えられるため、地域ごとに集合場所を設け、そこからまとめて乗車してもらう形を想定しており、そのような場面においても、地域のつながりは重要だと考えている。	豊木

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	新型コロナウイルスの流行がきっかけで地区の運動会など、体を動かすイベントが減ってしまい、現在もその傾向が続いている。新しい学校になった際には、地区と学校の行事をまとめて、学校を中心に複合イベントとして開催してはどうか。	コロナ禍以降、さまざまな地域イベントが復活できず、途絶えてしまっているのが現状である。各ふれあいセンターでは、ふれあいセンター祭りなどのイベントを開催しているが、その中で運動会の復活や、新しい形のイベント実施についても検討してもらえると大変うれしく思う。また、新しい学校の場所によっては、イベントへの参加を子供たちにはたらしかけやすくなる可能性があると考えている。イベントについては、皆様からさまざまなアイデアをいただきながら、町としても検討を進めていきたい。	鶯
	閉校する学校の跡地活用については、どのように検討しているのか。(2)	現在、既存の学校は災害時の指定避難所となっているため、跡地についても、同様の活用を想定している。閉校後は各教室も避難所として活用でき、プライバシー確保に役立つとともに、地区別に教室を割り当てるなどすることで地域コミュニティの維持も可能であると考えられる。また、民間による校舎の有効活用も視野に入れ、今後検討を進めていきたい。	富秋・豊木
廃校活用について(4)	廃校後の跡地活用については、事前防災の観点を持って統合前から検討することが重要だと感じる。例えば、廃校舎を自主防災の拠点や備蓄庫として活用することなども考えられると思う。そのような点についても十分検討したうえで、事業計画を策定して欲しい。	令和 13 年までは各校をこれまでどおり使用する予定であり、廃校までの間に、民間企業による跡地活用なども含めて幅広く検討していきたい。各校は現在、地域の防災拠点となっているため、その機能については引き続き維持していきたいと考えている。	豊木

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	廃校後の跡地管理が問題だと感じる。県立高校でも、20 年経っても管理が不十分なケースがある。	—	豊木
説明会について (3)	本日の説明会資料は、ホームページ等で公開する予定はあるのか。	説明会資料については、6 地区での説明会が終了後、町のホームページで公開し、皆様から意見をいただく予定である。	大野
	説明会に若い保護者の出席が少ないと感じた。もっと当事者の方々の意見を聞きたい。また、そういう方々にこそ説明を聞いて欲しい。	多くの若い保護者の方に説明会に来ていただくために、説明会の PR 方法を考える必要があると感じている。	西郡
	説明会を踏まえ、各会場における意見交換の内容や、議会で出た質問等も含めて Q&A 方式で取りまとめ、説明会に参加できなかった町民にも内容を周知して欲しい。	整理でき次第、各地区からいただいた意見と、それに対する町の回答を順次開示していきたい。できるだけ早い段階での情報共有に努めるとともに、議会に対してもさまざまな形で報告していきたいと考えている。	豊木
災害時対応について(2)	大規模災害発生時、新しい学校は他地域の受け皿になることが考えられるのか。	南海沖地震が発生した場合については、岐阜県は静岡県からの避難者を受け入れることになっているが、大野町がどの地域の受け入れを行うかについては未定である。新たに学校を整備する場合も、既存の学校を直ちに取り壊すわけではないため、7～8 校の校舎が残る見込みである。廃校となった既存校については他地域の受け皿としての活用が可能である。また、各校はすでに指定避難所となっていることから、その機能も維持されている。これらを踏まえ、既存施設も活用することで、十分に受け入れ対応が可能であると考えている。	西郡

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

	災害時などには、約 1,000 人の児童生徒の保護者が一斉に迎えに来ることも想定される。そうした状況も踏まえると、学校の場所はどこが最も望ましいと考えているか。	災害時に限らず、何かあった際には、保護者の方が学校まで迎えに来ることも想定される。新しい学校の整備にあたっては、一般車両や送迎車両の動線と、徒歩・自転車通学の児童生徒の動線ができるだけ交錯しないよう配慮していきたいと考えている。今後、校舎の規模や敷地面積等も踏まえながら、安全面を第一に検討を進めていきたい。	川合
情報発信について(2)	候補地を 3 案に絞った経緯や検討過程について、町民に十分伝わっているのか疑問である。町として様々な形で情報発信していることは理解しているが、ホームページ掲載だけでなく、説明会の意見交換の内容を整理して周知するなど、より分かりやすい形で情報共有して欲しい。	—	豊木
	決定後には住民として意見を述べる機会がなくなってしまうため、ある程度の段階で計画内容を示して欲しい。	—	豊木

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。

保護者への 意見聴取に ついて(1)	統合後の学校に子供が通うであろう 保育園の保護者など、できるだけ多く の当事者に意見を聞き、それを要望と してとりまとめて基本計画に反映し て欲しい。	—	西郡
他自治体の事例 について(1)	県内の山県市では、あえて学校統廃合 を行わない方針を掲げて学校運営を していると聞いている。山県市の事例 について、大野町では導入しない、あ るいは導入が難しいと判断した施策 があれば、その理由を教えて欲しい。	山県市の事例については、大野町とは地理的条件が大きく異 なるため、同様の方針をとることは難しいと考えている。大 野町は比較的コンパクトな地形であることから、総合的に考 え、1校への統合が最も効果的であると判断した。	川合

※小項目欄の()内は各項目の意見数を示す。

※質問・意見欄の()内は同様の意見数を示す。